

## 事業名 高校生のサードプレイス「みつカフェ。」

**事業主体** 名称：一般社団法人ぐるーん  
住所：岡山市北区下伊福西町 7-32-309

**事業実施場所** 岡山御津高等学校

### (1) 事業の目的

岡山御津高校では、様々な家庭背景で困難を抱えている生徒も通っているが、高校の教員によるサポートに加えて、より多様な地域の大人による関わりやサポートが必要とされている。当団体はこれまで社会的養護の必要な子どもたちへの支援を中心に活動してきたが、社会的養護に至る前の段階で困難を抱える子どもと関わり、支援を届ける必要性を感じてきた。校内に設けた居場所カフェにおいて、手作りの料理や傾聴、ワークショップの体験を提供し、健康面と精神面のサポート、安心できる空間、多様な体験の機会を提供することで、高校生の学校生活や大人への信頼感構築に寄与したいと考える。

### (2) 事業実施内容

#### 居場所づくり

① **事業名** みつカフェ。

② **参加人数・日時**

実施日時	参加生徒数	スタッフ人数
7月 7日(水)10:40~12:40	55人	15人
9月 1日(月)10:30~12:30	54人	17人
9月 15日(月)15:30~17:20	37人	6人
9月 28日(金)15:30~17:00	36人	6人
10月 20日(水)15:40~17:20	61人	8人
11月 10日(月)15:40~17:20	61人	7人
11月 21日(金)15:30~17:30	50人	7人
12月 7日(水)10:40~12:40	60人	12人
12月 23日(金)10:40~12:45	40人	16人
1月 10日(木)10:30~12:30	45人	15人
1月 31日(水)10:30~12:30	35人	12人
2月 3日(火)11:30~13:30	58人	12人
2月 14日(水)15:30~17:20	20人	7人
延べ人数	612人	140人

③ 場 所 岡山御津高等学校（生徒ホール・駐車場）

④ 内 容

居場所カフェの開催 13 回、ワークショップ 5 回、教員との振り返り 1 回

放課後に生徒ホール内でフードバンク等からいただいた食材を調理して提供し、生徒、スタッフ、教員らが交流できるカフェを定期的に開催した。浴衣の着付けやギター演奏、カードゲームのワークショップなどを実施し、クリスマスにはコンサートを行った。毎回アンケートを配布し、生徒の悩みやその時々のお気持ちを書いてもらった。教員との振り返り会を行い、生徒の様子や気になる点を共有した。



悠々ホルンさんトーク&ライブ



浴衣の着付けワークショップ



カードゲームワークショップ



カードワークショップ



性のお話ワークショップ



書き初め



お茶体験



先生との振り返り会

## ⑤ 活動の成果等

カフェの存在が生徒に定着し、安心して参加し、スタッフと交流する生徒の様子が見られた。ワークショップによって、さまざまな文化体験を提供し、浴衣は初めて着ることが出来てよかったという声も寄せられた。他人とのコミュニケーションが難しく教室で飲食が出来ない生徒がいたが、カフェに来るようになってからは毎回来て、飲食しながら落ち着いて過ごすことができていた。またみつカフェによく来ていた卒業生から公式 LINE を通じて、相談を受けて再就職の同行支援を行う関わりを持つことができた。

## スタッフ研修会

① 事業名 スタッフ研修会

② 参加人数 1回目 43名 2回目 19名

③ 日時 1回目令和4年9月1日 14～16時 2回目令和4年11月4日 13～15時

④ 場所 1回目御津高校の教室 2回目岡輝公民館

⑤ 内容

1回目 悠々ホルンさんの講演会 講師：悠々ホルンさん



2回目 傾聴の研修 講師：小松原京子先生（新見公立大学）



## ⑥ 活動の成果等

- 1 回目 全国の若者の悩み相談や自殺防止の講演活動をしている悠々ホルンさんの講演を聞いた。御津高校の教職員と合同で開催し、さまざまな困難や生きづらさを抱える若者の気持ちを理解し、寄り添う支援方法を学んだ。
- 2 回目 新見公立大学の小松原京子先生を講師に招き、傾聴の意義や効果、コミュニケーションについてのお話や、会話記録から「聴く」ことを考えるワークなどをしていただいた。傾聴は、相手の気持ちが落ち着く、考えが整う、生きる意欲がわくという効果があり、そのためには相手の言葉を遮らないことや、相手の言葉を反復することがよいと聞き、それらのポイントが高校生との会話でも大変参考になるものだった。

### (3) 事業を終えて

#### ○事業実施による効果

友達とのコミュニケーションが苦手であったり、教室内では食事が出来ないという生徒も、カフェの場では安心して毎回通ってきたり、飲食が出来ている様子が見られた。また、積極的にスタッフに話しかける生徒も増え、教員でも家族でもない大人と言葉を交わし交流できる機会を多く提供できた。また、ワークショップでは、浴衣の着付けや手作り料理、カードゲームを通じたコミュニケーションなど、多様な体験の機会を提供して、生徒の社会的資源となる経験を増やすことができた。毎回実施しているアンケートからは、カフェという居場所が学校生活の中のホッとできる時間になっていることや、食べ物の提供をしてもらっていることを喜んでいる様子が見られた。また1月には「生活困窮者自立支援制度における中国四国ブロック別研修」で、河本代表がみつカフェの事例紹介をし、今年度はみつカフェをモデルとして、岡山市内の高校2校において他団体による居場所カフェが始められることになった。

#### ○今後の課題・展開

高校において居場所カフェが定着してきたところであるが、新型コロナの影響で人数や活動内容に制約があったために、活動の幅をやや狭めた中での開催だった。来年度は新入生が数年ぶりに増える見込みで、これまでとは違う生徒層の入学も考えられるので、カフェにおいても多様な生徒に対応しながら、よりよい居場所の運営ができるようにしたい。

#### ○まとめ

高校の中に地域の大人たちが定期的に入ってカフェという居場所を運営することは、高校生にとっては参加しやすい場であるが、そのためには主催団体と学校側が意識をあわせて運営をしていくことが不可欠であり、学校環境が様々に変わる中で、学校との調整をしていくことも欠かせない。そのような大変さもあるが、来年度以降も高校生が笑顔になれる時間と場を提供していきたい。